

<コラム>

「制服が違うわけ ～隣の学校との学校間連携～」

岩手県立岩谷堂高等学校長

畠中 祥夫

「君たち、ほかの生徒と制服が違うようだけど、どうして？」

総合学科全国大会の授業見学が終わった時、女生徒たちは参観者から相次いで同じ問いかけを受けた。セーラー服とスーツスタイルだから、質問が続出するのも無理はない。スーツスタイルの彼女たちは隣の岩谷堂農林高校の生徒たちなのである。

毎週月曜日と木曜日の5、6校時は岩谷堂高校の生徒が「工業基礎」、「農業基礎」や「生物工学」を学びに、3キロ離れた隣の岩谷堂農林高校まで出かける。入れ替わりに岩谷堂農林高校の女子生徒が「簿記」を学びに本校まで出向いてくる。

本校は総合学科だから、たくさんの科目をそろえているが、農業や工業に関する科目の設置はない。そこでこれらの科目に興味・関心のある、また将来の進路希望などに関連して学びたい生徒を、2年次の科目を選択する際に募っている。はじめから本格的に農業や工業を学びたい生徒は専門高校へ進学するから、入学後、気持ちがいくらそちらへ向いた生徒ということで、人数は毎年2～3人である。

しかし、生徒のアンケートによると、「工業は、検定や製図など、僕の希望する職業につながりそうなので満足している。すぐに計算技術検定3級を取った。」とか、「家は農業ではないので農業を体験してみたかった。」「畑仕事やりんごの育て方、畑で作ったものを料理することなど、普段はあまりやらないことを楽しく学ぶことができた。」などと答えている。授業はほとんどマンツーマンで、「わかりやすく教えてくれる」と好評だ。試験は向こうの学校でやり、修得した単位はこちらの学校の単位として認定している。

一方、農林高校からは、毎年、就職を意識しはじめた2年生が22人、3年生が去年からの続きで24人、合計46人である。「簿記」はまったく初めての科目なので、興味をもって学べるよう家計簿からスタートして用語や会計の仕組みを徐々に教えている。3年生になると意気込みの違ってくる生徒もいて、2単位の時間数ながら日商簿記検定3級を取るものもいる。

「授業形態が面白いし、車で行き来するのも楽しい」と、この講座をスタートしてから本校は5年、岩谷堂農林高校は4年、まだ単位を落としたものはいない。